

Principal Correspondence

リーダーは志を！

英国のリーダーを育てるパブリックスクール(アメリカでは Boarding School といいます。中高一貫の主に全寮制のエリート校)では、下記の 4 つのリーダーの資質をあげています。

- ①体力と健康
- ②社会的・対人的能力(コミュニケーション能力・協調性・社会的適応能力)
- ③知的能力(いわゆる学力)
- ④志(使命感・公正・公平性・判断力・情熱・ノブレスオブリージ)

①の「体力と健康」は基本ですから学校では徹底的にサッカー、ラグビーやクリケットのような集団競技、あるいはボート漕ぎ(ガレイ船の奴隷の辛さを身にもって叩き込む?)をやらせ、有無を言わせず鍛え上げます。その結果、英国ではリーダー層と労働者層の平均身長は7センチも違うというデータがあります。

リーダー層は労働者層をこう言います。

「自分たちが体を鍛え勉強しているときに、彼らは十代からタバコを吸い、パブでエールやビールを飲んで(16 歳から可)、サッカーの応援を生きがいとしているから差がつくのだ。」と。

労働者はリーダー層にこう言います。

「何が面白くて、小さいときから勉強や辛いスポーツなどをやり、大して偉くもない役職にしがみつき、好き好んで苦勞しているんだ。人生は楽しむためにある。」

どちらも一理あり。永遠の論争です。

しかし英国では、リーダー教育の 4 点目の「**志の教育**」にはどちらの層も共感するのです。

リーダーは、私利私欲を持たず、使命感を持ち、法を厳守し、何より公正でなければ世の中は闇になってしまいます。

そして大事なことはノブレス・オブリージ(リーダーたるものの義務)。リーダーは一旦、事あって危機が訪れたら、真っ先に戦争で最前線に立たなければなりません。だから尊敬されるのです。英国では第一次大戦で最もリーダー層の死亡率が高く、一世代が消えてしまったとさえ言われています。近代では、アルゼンチンと英国が戦ったフォークランド戦争で、アンドリュー王子でさえ、ヘリコプターのパイロットとして戦っていました。

現在の英国王室への批判はハリー王子が公的な精神を忘れ、自分の生活のみに関心を持っている点に、多くの人が失望したことにあるのではないのでしょうか？

リーダーは、その負う責任の覚悟があるからこそリーダーなのです。
志のないリーダーは、ただのボス(Boss)といい、尊敬はされません。



Principal Correspondence

ふたつの知能

人間には大まかに、ふたつの知能があります。
多重知能と人間性知能です。

多重知能にはIQといわれる学力(言語, 数学)のほか, 音楽性知能, 絵画的知能, 運動的知能, 空間的知能などが含まれます。

一方, 人間性知能はHQと言い, やりぬく力, 忍耐力や自制心, 思いやりや場の空気を読む力, コミュニケーション能力(共感力)などがあります。

現代社会では

まず, 基本条件としてHQの知能が高くない子は成功できません(この場合の成功とは, 自分の得意な道で職業を持つことを指しています)。多くの専門家がHQこそが成功する子と, そうでない子を分けるといいます。HQの高い子は誘惑に負けずにコツコツ勉強? トレーニング? 練習? をするので自然に多重知能も高くなるのです。

逆にIQだけ高めようと早期に塾に入れるなどして, HQを育てないと人間関係に常に問題を起こす子になってしまいます。そもそもIQは10代を超えれば伸びることはありません(ハックマン博士のペリープリスクール研究)。

HQはほぼ10歳までに原型ができますが, その後20代前半まで伸びるとわれています。特にコミュニケーション能力が重要です。



①自制心・・・21世紀は目の前の誘惑にガマンをできる力のない子はかなり厳しいと多くの科学者が言っています。

②やりぬく力(GRIT)とも言いますが, 「遠くにあるゴールに向かって興味を失わず, やり続ける力」を育成することが大事だといえます。コツコツ頑張ることです。継続と反復。筋肉を鍛えるように育てると良いと言われます。

今, 水泳や, ピアノなどの習い事, 中学高校の運動のクラブ活動や, 生徒会, ボランティアなどが見直されてきています。HQを鍛えれば, (省略)IQがさほど高くなるとも成績は良いという子がたくさん存在します。

コツコツ頑張る人にはどんな才能もかなわない。

イチローや大谷翔平選手のように。

多くのノーベル賞科学者も, 例えば IP 細胞研究の山中教授のように
勿論IQは高いのですが, よりHQが優れているように思います。